

書評

[評者]

草場鉄周

日本プライマリ・ケア連合
学会理事長/北海道家庭医療
学センター



プライマリ・ケアの現場で感染症診療の定石が書いてある。
日々の「風邪」診療における12の戦略が
明日の医療を変える！

誰も教えてくれなかった
「風邪」の診かた
感染症診療 12の戦略 第2版
岸田直樹 著

●A5 頁338 2019年11月
定価：本体3,500円+税
[ISBN978-4-260-03963-5]医学書院刊

風邪は毎日遭遇する大切な健康問題であるが、多忙な外来の中でその背後に広がる深みのある世界に思いをはせることはそう多くはない。本書はその風邪を入り口としながら、風邪、そして感染症の診かたを実にわかりやすく具体的に解説した素晴らしい良書である。

第1章では当たり前に思える風邪を主症状ごとに分類し、そのアプローチを明確に説明していく。第2章では風邪として扱われやすい〈発熱+α〉の症状を症状ごとに分類し、同じくそこに隠れているさまざまな疾患について鑑別診断のポイントを強調しながら解説する。第3章では高齢化が進む日本で重要となる高齢者診療において、感染症治療のスタンダードがいかに変化するかに力点を置きながら、12の指針を示す。最後の第4章はインフルエンザ診療に特化したノウハウが

語られる。

いずれの章でも、感染症診療に関する豊富なエビデンスに加えて、著者自身の感染症診療の経験に基づく具体的かつ合理的なアドバイスが明確に示されているのが特徴であり、明日の診療から早速適応したいと思わせる情報が多い。また、親しみやすい語り口の中にも著者の葛藤を随所で感じられ、臨床医として共感できる部分も非常に多い。

プライマリ・ケア診療に当たる全ての医師にとって、ぜひ手に取って通読し、診察室の手の届く所に置いてほしい書である。風邪診療に潜むもやもや感はずっと一掃され、むしろ知的好奇心を持ちながら「風邪」の患者を迎えることができるはずだ。